



せい しん つう しん  
**聖 心 通 信**

**札幌聖心女子学院**

校長 齊藤 隆浩

第6号 2022年8月31日

〒064-8540 札幌市中央区宮の森2条16丁目10番1号

TEL 011-611-9231 / 011-676-7667(職員室直通)

URL <https://spr-sacred-heart.ed.jp>

FAX 011-612-0980

充実した夏休みを過ごすことができましたか。前期期末考査が近づいてきています。まだまだ暑い日もありますので、引き続き感染予防を意識しつつ、熱中症にも十分に注意していきましょう。



**9月の予定**



		行事	弁当
1	木	北海道シェイクアウト 母の会パン販売(12:25~13:10)	要
2	金	ウクライナプロジェクト募金①	要
3	土	サタデープログラム⑨ 高1・高2保護者会 寄宿保護者会 母の会幹事会 父の会聖書サークル(16:00~Sr.田口)	
4	日		
5	月	終礼時考査時間割発表	要
6	火	放送朝礼 母の会聖書サークル(10:30~Sr.田口)	要
7	水		要
8	木		要
9	金	ウクライナプロジェクト募金②	要
10	土		
11	日		
12	月	前期期末考査① 職員会議	※
13	火	前期期末考査②	※
14	水	前期期末考査③	※
15	木	前期期末考査④ 帰省日	不要
16	金	生徒秋休み (~19日)	
17	土		
18	日		
19	月	敬老の日 帰舎日	
20	火	考査返却①(特別時間割) 母の会聖書サークル(10:30~Sr.井出)	※
21	水	考査返却②(特別時間割) 夏期研修報告会	※
22	木	個人票手渡し 高1高等養学校交流会(昼食後出発)	要
23	金	秋分の日	
24	土	サタデープログラム⑩ 中2英語レッスン	
25	日		
26	月		要
27	火	放送朝礼	要
28	水	防災訓練(4限) 成績会議(15:40~)	要
29	木	LHR(後期委員決め、K2進路ガイダンス)	要
30	金	球技大会(於:北海きたえーる)	要

☆ ※の日は、必要な方は昼食をご用意ください。

☆ 行事予定は暫定のものです。大きな変更がある場合には、一斉メールや学校ホームページ等でお知らせいたします。

**姉妹校合同**

**SOFIS ワークショップ**

8月1日~3日まで、不二聖心女子学院で行われたSOFISワークショップに、高2高3の5名が参加しました。今年度のテーマはSDGsゴール11「住み続けられるまちづくりを」でした。3年ぶりとなる対面でのワークショップには姉妹校5校から31名が集まり、2泊3日の行程をともに過ごしました。

初日、不二聖心の雄大な自然と隅々まで磨かれた校舎に圧倒されながら学校見学をした後は、各校の事前学習発表、学校紹介、交流会を行いました。今回、食事場所として利用させていただいた「山の家」では、札幌聖心の第3代校長シスター山崎がお世話くださり、ご挨拶することができました。

2日目は、フィールドワークを行いました。水の都三島市の取り組みについて市役所職員の方からガイダンスを受けた後、源平川、楽寿園、浅間神社を回りました。午後は三島市長直々のレクチャーの後、白滝公園、桜川、鎌倉古道、三嶋大社を巡りました。行程の最後に訪れたカトリック三島教会では、これまでの感謝とこれからの決意を共同祈願としてお捧げしました。

最終日は、上智大学基盤教育センター吉川まみ先生に「持続可能な地域の担い手としてどのような視点が必要か」をテーマに講話いただき、それをもとに、どのような地域で、どのような方々に、どのような支援ができるのか考え、発表しました。各校それぞれの観点からの今後の取り組みに大いに期待が高まる分かち合いでした。

コロナ禍の上、慣れない猛暑下での徒歩見学もありましたが、お支え、お祈りいただいたたくさんの方々のおかげで、誰一人体調を崩すことなく予定を全うすることができました。



## 今月のこころのことは

「主は言われる、わたしがあなたがたに対していただいている計画は…災を与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである。」 (エレミア書29章11節)

原爆投下77年目のこの夏、長崎から平和大使を務める高校3年生のメールが届きました。中学3年の国連研修生も、原爆投下の意味を考える課題に取り組んでいます。

戦争とは何でしょうか。ウクライナからのニュースに、「戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。」というヨハネ・パウロ2世の平和アピール(1981年広島にて)を思い出します。

教皇が平和祈念館に残されたエレミア書の一節(神様が私たちに抱いている計画は平和を与え、将来と希望を与えるものである)を改めて味わうと、暗闇が広がる世界にも、希望の灯が見えます。渇きがひろがる世界に緑あふれる希望の風が吹きます。

夏季職員研修会で「宮の森からの風」と題して講話されたイエズス会の林尚志神父様のお話を聴いて、「今ここに吹く希望の風に気づき、心を開いていこう」と思いました。

ミサの中で神父様が、「札幌聖心で『“ICAN”って知っていますか』というとき、生徒が手を挙げて『核兵器廃絶国際キャンペーン International Campaign to Abolish Nuclear Weapons のことです。』と答えるところがすごいと皆に話しているんですよ。」と言われた時、平和のために様々なアクション・プランに取り組む生徒たちと支援する先生たちの姿を想い、さわやかな風を感じました。

8月の姉妹校交流研修会 SOFIS の今年度主催校不二聖心の先生からいただいた「札幌聖心の生徒が持続可能なまちづくりのアクション・プランを短時間に作り上げて、あっという間にプレゼンを完成させ、すばらしかったことをご報告します。講師の上智大学の先生も褒めていらっしゃいました。」というメールにも、ずっと SDGsに取り組んできた生徒たちの地道な努力を想い、緑の風を感じました。

宮の森の丘の緑やみこころのご像、聖母像を祈りのうちに巡って歩きながら、神様から送られた希望の風は、これからも、どんな状況でも、それぞれの心をいのちの緑に染め続けていくことを思いました。

一人ひとりが、いつも希望の風に心を開いて生きていけますようにと祈ります。

[チャプレン Sr.田口保子]

